

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

基山町合宿所整備プロジェクト

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

佐賀県三養基郡基山町

### 3 地域再生計画の区域

佐賀県三養基郡基山町の全域

### 4 地域再生計画の目標

基山町は、佐賀県の東端に位置し、福岡県（筑紫野市・小郡市）、鳥栖市に接する面積22.15平方キロメートルの小さな町で、古くから古代官道や長崎街道など主要道路が町域を通り、現在でも国道3号線、JR鹿児島本線、九州自動車道が縦走するなど交通の要衝地として発展してきた。基山町は、交通の利便性から福岡都市圏の一角として大規模な住宅の開発が進み、ピークであった2000年の人口は19,176人を数えた。しかし、その後若年世代の町外への進学、就職等の理由で人口は減少に転じ、平成28年12月末現在の総人口は17,389人となり、急速に進行する高齢化と若者世代の転出等が喫緊の課題となっている。

基山町では、町民の健康増進とスポーツ振興を推進するため、基山町総合体育館及び基山町武道場を整備し、また多目的グラウンドや都市公園等を併設している。町民全体の運動の機会を増やすため、毎年開催している町民体育大会には約5,000人の町民が一同に会しスポーツやレクリエーションを楽しみ、冬季に行っている基山ロードレース大会には町内外より8,000人を超える参加者が集い、記録を競い合う。

また、基山町のアクセスの良さを活かし、町内の体育施設には、大人から子どもまで様々なスポーツ種目の九州大会等の広域スポーツ大会が開催され、町外から多くの参加者が本町を訪れている。

基山町では、町の活性化のために本町を通過点から交流拠点にすることを目指して様々な取組を拡大している。平成27年から基山ロードレースと共に開催している「基山スロージョギング大会」には既に多くの参加者があり、早さだけでなく自分のペースで楽しみながらジョギングすることで、身体や心の健康づくりを図り、新しいスポーツの楽しみ方を発信している。また、平成28年に基山（きざん）草スキー場で開催した「草スキー世界大会」も町内外からの参加者で大いに盛り上がりを見せた。

一方で、イベント等で町内を訪れた参加者等は、基山町の交通の利便性の良さから当日のうちに帰宅し、又は宿泊地へ移動するため、町内に滞在し基山町の文化に触れ、地元の食を味わうなど、町の良さを満喫することは完全には出来ていない状況である。このように基山町にとってもスポーツイベント等の開催をまちの活性化につなげることが課題となっている。

このような中、平成 28 年に隣接している鳥栖市にある実業団バレーボールチームが、合宿地として本町の体育施設を選定し、宿泊地から本町の総合体育館までを通過しながら、数日間の合宿期間中に公開練習を実施したり、子どもたちとのバレーボール教室に取り組んでくれたことで、町内に歓迎の機運が高まり、特に町のバレーボール競技者には有意義な時間になったと思われる。

そこで本計画では、町内に宿泊施設の整備をするとともに、地元特産品を使った食事の提供など町民総意でおもてなしをするような施設運営の仕組みづくりを行うことにより、更にスポーツの振興を促進し、交流人口の増加を目指す。

#### 【数値目標】

事業	基山町合宿所整備プロジェクト	年月
K P I	合宿所利用者数	
申請時	一人	H29. 1
初年度	0 人	H30. 3
2 年目	800 人	H31. 3
3 年目	1, 100 人	H32. 3

### 5 地域再生を図るために行う事業

#### 5-1 全体の概要

文化・スポーツ等のイベントを通してまちを活性化させ、交流人口を増加させるため、町内に宿泊施設を整備し、文化・スポーツ合宿等の誘致を行うほか、各種スポーツイベント等を実施する。

#### 5-2 第 5 章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

（1）事業名：基山町合宿所整備プロジェクト

（2）事業区分：観光業の振興

#### （3）事業の目的・内容

（目的）

基山町では、便利な交通手段によって、町内外のスポーツ愛好者によって体育施設等の利用が盛んに行われているが、今後、基山町の町を活性化させ、交流人口を増やすためには、文化・スポーツ施設利用者だけでなく、イベントや研修等も含めた多様な宿泊ニーズに応えるための宿泊施設を新たに建設するとともに、年間 100 件を超える既存の広域大会主催者への施設案内に加え、佐賀県大規模国際スポーツ大会キャンプ誘致協議会と連携し合宿誘致を進め、宿泊施設利用者には地元商業者

や農業者と連携して食材のケータリングを提供するなど、繰り返し利用してもらえるよう町民総掛かりでおもてなしを行う連携体制の構築が必要である。

これにより、文化・スポーツ等を契機に来訪した人々が、町内に留まり、滞在時間を延ばすことで、地元の食を通して基山町の文化に触れ、また歴史的な観光名所等も周知することができれば、基山への愛着の創出を図ることができるとともに、町内の子どもたちへ体験教室の提供など交流も期待できる。このように文化・スポーツ振興を通じた、地域産業の振興と観光振興により一体的に基山町の活性化を図るものである。

#### (事業の内容)

文化・スポーツ振興を核とした基山町の活性化を図るため、現在町内には存在しない宿泊機能を備えた施設の建設について建設条件等の整理をして、基山町内の既存の文化施設及びスポーツ施設に隣接して新設する。運営については、文化・スポーツ団体や農業団体など、文化・スポーツと産業の一体的な振興を目指して、安定的な運営ができるよう、既存施設とともに指定管理にて運営をする体制を整える。また、長期滞在可能なスポーツ合宿等を誘致すべく、ホームページ・フェイスブック、県内外の体育協会、自治体、施設利用団体、大学、高等学校等へ施設利用紹介等を行い、交流人口の増加を図るとともに町の活性化を推進する。

#### →各年度の事業の内容

##### 基山町合宿所整備プロジェクト

初年度) 建設用地等を購入し、合宿所建設に向け、基本・詳細設計等を委託して行う。(合宿所建設工事については、地方創生拠点整備交付金を活用して実施する。)

管理運営体制を整えるとともに、宿泊サービス連携体制の構築を行う。

町の公式ホームページや既存の文化・スポーツ施設利用者、大学・高等学校等への案内を通じて、宿泊施設を広くPRし、合宿や研修等の受入れを行う。

(平成30年5月オープン、合宿等受入れ)

2年目) 町の公式ホームページや既存施設の利用者等への案内を通じて、宿泊施設を広くPRし、合宿や研修等を受け入れ、利用者及びPR用のパンフレットを作成する。

3年目) 町の公式ホームページや既存施設の利用者等への案内を通じて、宿泊施設を広くPRし、合宿や研修等を受け入れる。

#### (4) 地方版総合戦略における位置づけ

本町のまち・ひと・しごと創生総合戦略においては、自然と歴史・文化・スポーツを活かしたまちづくり施策を定めており、基山町合宿所整備プロジェクトは、新たに宿泊施設を建設し、文化施設及びスポーツ施設の利用者をはじめ、多

様な宿泊ニーズに応えることで、文化・スポーツの振興を通じた、地元産業の振興及び観光振興による基山町の活性化を促進する。

また、自然と歴史・文化・スポーツを活かしたまちづくりのための具体のKPIとして、町外の体育施設利用者数（現状 27,000 人→H31 年度目標 50,000 人）、交流人口増（目標 1,000 人）を定めており、本プロジェクトは、まさにこの目標の達成に直接寄与する。

**（５）事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））**

事業	基山町合宿所整備 プロジェクト	年月
KPI	合宿所利用者数	
申請時	一人	H29.1
初年度	0人	H30.3
2年目	800人	H31.3
3年目	1,100人	H32.3

**（６）事業費**

（単位：千円）

基山町合宿所整備プロジェクト	年度	H29	H30	H31	計
	事業費計		40,651	1,000	1,000
区分	役務費	141			141
	委託料	10,010			10,010
	需用費		1,000	1,000	2,000
	工事請負費	5,000			5,000
	備品購入費	500			500
	公有財産購入費	25,000			25,000

**（７）申請時点での寄附の見込み**

年度	H29		計
法人名	精密金型設計業	家具製造販売業	
見込み額（千円）	200	200	400

**（８）事業の評価の方法（PDCA サイクル）**

（評価の手法）

事業の KPI について、基山町まち・ひと・しごと創生推進会議により事業結果を検証し、改善点を踏まえて事業手法を改良することとする。

（評価の時期・内容）

毎年度 3 月末時点の KPI の達成状況や効果などについて、事業実施担当課が確

認し外部有識者等により構成された基山町まち・ひと・しごと創生推進会議により検証のうえ、次年度以降の施策にフィードバックする。

(公表の方法)

目標の達成状況については、検証後速やかに基山町ホームページ、情報公開コーナーにて公開する。

## (9) 事業期間

地域再生計画認定の日から平成 32 年 3 月まで

## 5-3 その他の事業

### 5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

### 5-3-2 支援措置によらない独自の取組

#### (1) きやまスロージョギング大会の開催

内 容 スロージョギング®は、誰にでもできる安全かつ効果的な運動として福岡大学スポーツ科学部田中宏暁教授が考案され、基山町では住民一人ひとりの楽しい運動習慣を形成することを目的に平成 27 年度に全国初の「スロージョギング大会」を基山ロードレース大会(毎年開催)と同時開催するなど、日常的にスポーツに親しみ、地域でのスポーツ行事への積極的な参加を推進している。

実施主体 基山町体育協会 基山町

実施期間 平成 27 年度～

#### (2) スロージョギング教室

内 容 スロージョギングで健康づくりを目指し、昨年 4 ヶ月 22 回開催した教室を本年度は、約 7 ヶ月 44 回に増やし、町民の健康づくりを推進している。

実施主体 基山町

実施期間 平成 28 年度～

## 6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成 32 年 3 月 31 日まで

## 7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

### 7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

事業の KPI について、基山町まち・ひと・しごと創生推進会議により事業結果を検証し、改善点を踏まえて事業手法を改良することとする。

### 7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

毎年度(7月予定)に外部有識者等により構成された基山町まち・ひと・し

ごと創生推進会議による効果検証を行い、取組方針を決定する。

### 7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

目標の達成状況については、検証後速やかに基山町ホームページ、情報公開コーナーにて公開する。